

コンファレンスプログラムの新名称:

「Solar meets Glass」から「Function meets Glass」に変更

高精度に生産・加工された薄板ガラスはディスプレイ、タッチガラス、スマートガラス、およびソーラーガラスに不可欠だ。これらのガラス製品をいかに高品質、かつ短いタクトタイムで最大量生産できるかが2016年9月19日～20日に開催されるコンファレンス「Function meets Glass」の主要テーマだ。

ファサード、窓、車、テレビ、タッチディスプレイ、OLEDなど、今、機能性ガラスはほぼあらゆる生活領域で使用されている。ガラスが持つアプリケーションの可能性は無限に近い。だから未来はガラスにあると言える。glasstec会期中の9月19日と20日に開催されるコンファレンス「Function meets Glass」では、製品要件や、機能性ガラスの製造・加工装置で可能となる特殊プロセスが紹介される。

そして学术界・産業界を代表する著名な講演者が最先端技術や製品を紹介し、参加者に国際的な対話の場を提供する。会議初日は機能性ガラスの加工・仕上げ設備に焦点を当てる。二日目は、製品、市場およびアプリケーションが主要テーマとなる。ここでは最新製品とアプリケーションに関する先駆的コンセプトが紹介される。そして薄板ガラスの製造・加工の特別要件について議論する。コンファレンス「Function meets Glass」はドイツ機械工業連盟ガラス技術フォーラム、太陽光発電設備ワーキンググループ、ならびに東バイエルン技術移転研究所(OTTI)との協力のもと、glasstec会期中に開催される。

glasstec 2016は、機械製造、工業、建築、建設、手工業および太陽光発電で活躍する専門家にとって避けて通れない見本市だ。特別展やコンファレンスなど幅広い併催プログラムを用意し、見本市来場者に付加価値を与える。

glasstec 2016のハイライトは今年も特別展の「glass technology live」だ。この特別展は前回に続き、ロンドンの設計事務所フォスター・アンド・パートナーズのシニアエグゼクティブパートナー、シュテファン・ベーリング教授とシュトゥットガルト大学・IBK2チームによって企画されている。斬新な展示品、革新的な製品、また今後3年から5年の先駆的なガラスソリューションを示す。今回の中心テーマは、フリーフォーム・超薄型・剛性・情報型のガラスである。

その他、実践スペースを兼ねた手工芸センターの「クラフトライブ」、「ガラス・ファサードコンピテンスセンター」、さらにガラス工芸展示の「ガラスアート展」も特別スペースとして設置される。

glasstec2106の会期は2016年9月20日～23日、そして会場はデュッセルドルフ見本市会場である。見本市の詳細はwww.glasstec.deを参照。

glasstec 2016のプレスポータルは : <http://www.glasstec.de/presse>

そしてフォトサービスは: <http://fotoservice.messe-duesseldorf.de/glasstec>

glasstec 2016 の広報担当

Daniel Krauß(ダニエル・クラウス)/

Brigitte Küppers(ブリギッテ・キュパーズ)

Tel.: +49(0)211/4560-598 oder -929

Fax: +49(0)211/4560-87 598

E-Mail: KraussD@messe-duesseldorf.de あるいは

KueppersB@messe-duesseldorf.de